

志賀原発 冷却海水3層上昇

当初「変動なし」を訂正

石川県能登地方を震源

とする最大震度7の地震で、北陸電力は、志賀原発（石川県志賀町）の敷地内に海水を引き込んである水槽の水位が約3層上昇したことを明らかにした。当初、「有意な水位の変動は確認できなかった」としていたが、情報共有が不十分だったと

して訂正した。

この水槽は、発電機などの冷却用の海水をためるもの。沖合の取水口から約500層の地下トンネルで海水を引き込んである。

約3層の水位上昇について北陸電は、海面の水位を測ったものではないとして「襲来した津波の

高さに対応するものではない」と説明。今後、水槽へ海水を引き込んでいる地下トンネルの影響を踏まえて解析し、津波の高さを評価するという。

北陸電によると、1日午後6時ごろまでの約15分間に、水槽内の計器で

約3層の水位上昇を確認した。普段の水面は敷地より約11層低いため、海水が敷地に流れ込むことはなかったという。

発電所関係者からの指摘でデータを確認し、判明したという。2日夜に発表した。（福地慶太郎）